



優秀賞

●団体名・グループ名

松崎中学校ゲンジボタル保護ボランティア

◆審査委員の評価ポイント

台風の被害現場を、生徒の手で復元し、数百メートルにわたるホタル水路、荒れ地の復元、カワニナ用の田んぼまで造った例は国内にはない。

野外でこのような規模のホタルのためのビオトープを復元したことを高く評価したい。

特に、以下の点は審査委員から個別の評価を受けている。

- ・台風被害及び荒廃地の復元を通じた自然再生活動
- ・中学生の自主性、自発性にもとづく活動
- ・ホタル水路づくりや地域の方々とのかかわりから学びへとつなげる展開

●活動の場所 静岡県賀茂郡松崎町市 那賀川とその周辺	●活動したこどもの人数 35人
	●活動したこどもの学年 中1～3年

●活動の概要

台風の被害を受けたゲンジボタルの生息地を救おうと平成11年生徒有志による松崎中学校ゲンジボタル保護ボランティアが発足しました。

ゲンジボタルを保護する具体的な手だてとして、カワニナの放流や生息地付近の棚田跡にホタル水路を作ったり、沢整備などをしていきました。また、カワニナを養殖するためにワサビ田作りも試みました。現在はワサビに変わり、クレソンやセリが植えてありますが、そこから水路をのばし、ゲンジボタルの生息する用水路につなげていき、広範囲にわたり、ゲンジボタルが飛び交うことができるようにしていきました。

<http://www.izu.biz/matsuzaki/>

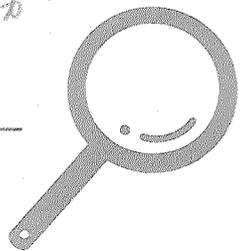
活動した団体・グループ名

松崎中学校 ゲンジボタル保護ボランティア

活動の場所

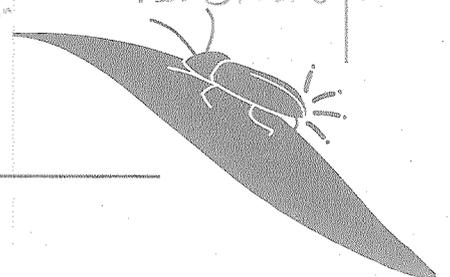
那賀川とその周辺

おもしろかったこと、環境大臣やみんなに伝えたいこと
 私達はゲンジボタルの保護活動をするのに、ホタル水路づくりを主な活動として行って
 きました。ホタルの水路をつくるといっても、スコップで土を掘るだけではありません。
 水路をつくったところは竹や木が密集して生えている所が多く、水路をつくる前にそれら
 を取り除いていかなければなりません。また、竹の根や株、木の根が土の中にあり、
 それらを取り除くことと簡単な作業ではおぼせませんでした。竹や木を取り除いた場所は空間
 が広がり、さわやかな風が通り抜けていきました。そして光がさし込み、何とも言えない
 すかすがい気持ちになりました。作業の疲れも吹き飛ばされます。根を一本一本にギリギリ取り
 取り、掘り進んでいきます。竹株は株の周りを掘り、みんなで力を合せて、引き抜いていきました。
 苦労して掘った水路に水を通していきます。水の先が生き物のようにさらさら音を立て
 進んでいきます。みんなの歓声が上がります。土がむき出しの水路の周りも、
 次の年には草も生え自然な状態になっていきます。また、水路にトンボもとてからとなく
 飛んできます。水辺にはカエルも見かけるようになりました。他の生き物にとってもこの場所
 が役立っているのだと思えるようになりました。夏休みに、町の教育委員会の主催する
 青少年健全育成事業と連携して、ホタルの水路づくりを4年前から行っています。小学生そして
 地域の方も参加し、大勢で作業を行います。大人も子供もいっしょになって夏の暑い中、
 汗びっしょりになり作業を行いました。大人の人の作業ぶりには感心します。また、
 大人の人達といろいろなことを話しながら作業するのはとても楽しかったです。
 環境大臣に伝えたいことは、川岸をセメントなどで固めてしまうのは、止めを欲しいと
 いうことです。川の生き物と川岸の自然は、とても大切であることを、ホタルの保護活動を通
 して知ったからです。また、みんなには、川にゴミやカンなど捨てないで欲しいと思
 います。水路などを作っていると、道路などから見えないうゴミが
 たくさん見つけることがあるからです。



活動の内容

私達の町の中心を流れる那賀川中流域には、ゲンジボタルの生息地があります。8年前に大発生し、話題になりました。しかし、その後の台風や集中豪雨により、ゲンジボタルの餌になるカワニナが川底の土砂ごと流されてしまうなどの被害を受け、ゲンジボタルの発生数も減少していきました。カワニナを放流して、ゲンジボタルの減少を食い止めようとしたが、台風などの被害を受け思うように食い止めることはできませんでした。そこで、私達はゲンジボタルの生息している河川の近くで、被害の受けにくい場所をさがし新たに生息地を作ろうと計画しました。「500mのホタル水路づくり」と名付け、活動を始めました。最初に河川に流れ込んでいる沢を新たな生息地にするこににして上流約100mまで、沢をおぼっていた竹などを取り除いて行き、ゲンジボタルが飛べる空間を作っていました。この沢は、幅は約2〜3mほどの沢で山から那賀川の生息地へと流れています。年間を通し、水量は多く川岸の岩や石垣にはコケがたくさん生えていました。次の作業は、沢の下流部から約100m上流にある田んぼの用水路へと沢を水路でつなげて行くことでした。この用水路の約200m上流にはゲンジボタルが毎年、多く発生するワサビ田があり、この用水路にそこからゲンジボタルが飛んできます。また、那賀川との合流付近では、ゲンジボタルも生息しています。水路は、2年前に沢の下流横に作ったカワニナの養殖池の水を引いて行きました。水量が足りないので、昨年100mほど上流からパイプを2本引いてきました。また、水路の上の空間をさえぎる木や竹も取り除いていき、用水路のゲンジボタルが沢の方へ飛んで行けるようにしました。沢は、河川にある大きな州で2つに分岐し、下流側へ約70m、上流へ約60mの小川になっています。上流側の小川は、先輩達がつくった水路ですが、河川との合流地点では、両側ともゲンジボタルが多く飛び交っています。今年の6月には、5匹程度のゲンジボタルが整備された沢の上流に、飛んでいるのが確認されました。用水路と沢をつなげたことにより、ゲンジボタルが約500mの間を自由に飛び交える空間と水の流れができました。また、陸地にある生息地と河川の生息地が水路などでつながりました。





工夫したところ

現在、ゲンジボタルの生息している、2つの場所と、これから生息地にしたい場所を水路等でつなぎ、また空間をさえる竹や木なども取り除き、3つの場所をゲンジボタルが自由に飛び交うことができるようにしました。現在の生息地から新しく生息地にしたい場所にゲンジボタルが飛んで行き、住み着いてくれるようになってほしいと思っています。また、将来新しい生息地に住み着いてくれたゲンジボタルが、今までの生息地が水害等を受け、ゲンジボタルが減少してしまうようなことがあった場合、今度は新しい生息地から、ゲンジボタルが飛んで行けるようになってくれればと考えています。

これからやりたいこと

私達の町では、ワサビ田からゲンジボタルが良く発生しています。そのことから、ワサビ田を作り、カワニスを増やしゲンジボタルを発生させようと言画しましたが、作った場所が低かったため大水で泥が堆積してしまいワサビが思うように育ちませんでした。新しく生息地にしていく沢の上流には、ワサビ田に適した場所があり、そこにも1度ワサビ田を作り生息地に行きたいと思っています。他にも、使われなくなった棚田を利用し、大規模なカワニスの養殖池を作ることも計画しています。また、500mのホタル水路を作った場所から、1キロほど上流には生息地の川に面した場所に、約0.5ヘクタールの棚田跡を整備し、昨年の夏に約200mのホタル水路を完成させました。まだ、周りの整備が不十分なので、もう少し手を加えていきたいと思っています。また、那賀川を広域に渡りゲンジボタルが生息できるようにしていきたいと思っています。

